

序 文

この報告書は当研究会が平成10年度に行った「もの造りの技術・技能の形成と伝承」—中部地区自動車産業における実証的研究—における調査研究の成果をまとめたものである。

我が国製造業の海外生産への移行が進展し、国内産業の空洞化の危機が叫ばれている中で、国内の雇用の安定性と産業基盤の健全性を高めていくために、「もの造りの技術・技能」の向上は労使共通の課題であり、また基幹産業労使の社会的責任でもある。

本研究は高い国際競争力を誇る我が国自動車産業、中でも高い品質と生産性を有する中部地区の自動車産業のもの造りの仕組みに着目し、これまで断片的または特殊事例としてしか紹介されなかった「もの造りの技術・技能」の形成の過程と伝承の仕組みを、部品メーカーや素材加工工程から自動車の最終組立に至るまで、各職種の現場に密着した聞き取り調査とアンケート調査によって体系的、かつ実証的に明らかにし、今後、部品メーカーを含めた我が国自動車産業労使が取り組むべき課題を明らかにしようとするものである。

本研究は法政大学経営学部教授 小池和男氏をチーフ研究主査とし、一橋大学イノベーション研究センター教授 中馬宏之氏、名古屋大学経済学部助教授 太田聰一氏を含めた3名による聞き取り調査を中心に、これにアンケート調査結果を加え、企業労使の代表による専門委員会を逐次開催して現場の実感とのすりあわせを行うことによりまとめられた。特に、聞き取り調査の範囲が自動車産業をほぼ網羅するレベルにまで及んだため、そのまとめ作業に予想以上の時間を費やし、各職種の記述は聞き取り調査の緻密さ、熱心さを物語るきわめて克明なものとなり、できあがった報告書は400ページを超える大冊となった。

これにより自動車産業におけるもの造りの技能の形成過程がほぼ解明されたと言ってよいのではなかろうか。今後危惧される技術・技能の伝承の課題についても一定の方向が示唆されている。その結果、研究結果は調査対象となった自動車産業のみならず、その他の製造業にも十分に適用できる内容となっている。現場の管理監督者、人事教育担当者、製造部および生産技術部関連の技術員などの方々のお役に立てれば幸いである。

最後に、数十回にわたる聞き取り調査のために遠路はるばるご足労いただき、膨大なデータをまとめあげていただいた上記3名の先生方と、お忙しい中聞き取り調査にご協力いただいた方々、アンケート調査にご協力いただいた方々、専門委員のみなさまに心から感謝申し上げる次第である。

1999年12月

中部産政研 理事長 植本 俊一